Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.27, October 2021
https://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2021
vol.27
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

2021 年度オンライン入学式・春季保護者懇談会

情報学部学生委員会　峰野 博史

例年４月に静岡県コンベンションアーツセンターで開催される入学式ですが、今年もコロナ禍により通常の開催を断念し、オンラインにて開催いたしました。オンラインでの開催は昨年度に続いて２度目となりました。本年度は、情報科学科 101 名、情報社会学科 70 名、行動情報学科 71 名、情報科学科３年次編入生８名の合計 250 名の新入生を迎えました。新入生ガイダンスは三密対策の上で対面実施させていただきましたが、新入生の保護者の皆様におかれましては少しでも情報学部の雰囲気が伝わるよう「情報学部保護者懇談会」用特設 Web サイトを開設いたしました。笹原学部長と各学科長はじめ、教務委員会・学生委員会・キャリア支援室・国際交流委員会といった情報学部教員で構成される代表的な委員会から情報学部の現状、教育、就職、学生生活等のご紹介や、浜松工業会からのメッセージ動画も掲載させていただきました。静岡県内だけでなく東京、愛知、神奈川、大阪といった国内からのアクセスに加え、アメリカや東南アジア諸国からのアクセスも見られ、特設 Web サイト開設やコンテンツ拡充への期待も感じました。アンケートフォームからいただいた貴重なご意見は、各委員会ならびに教授会等を経て今後の学部運営に反映させるべく参考にさせていただいておりますので引き続きご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。

新歓スポーツデイ 2021

情報学部学生委員会　峰野 博史

例年４月に新入生向け新歓合宿を開催してきましたが、今年もコロナ禍により合宿形式での開催を断念し、4/24(土)に浜松キャンパスグラウンドにて新歓スポーツデイを開催しました。浜松全学部新入生歓迎実行委員会執行部（代表：情報社会学科３年田中文菜さん）および情報学部学生委員会が連携し、新入生の歓迎と相互の親睦を深めるためのイベントを考えてきました。当日は約 300 人弱の参加者で入念なコロナ感染対策や終了後の注意喚起のもと実施されました。新入生セミナーの 16 クラスならびに、前年度あまり行事を実施できなかった２年生参加希望者も募って、グラウンドいっぱいを使ったスポーツ実施やキャンパス規模での宝探しなどを楽しみました。天候の影響で実施が１週間延びてしまいましたが、当日は天候にも恵まれ友達作りのよいきっかけとして盛況なイベントとなりました。230 件のアンケート結果からも参加してよかったという声が 94% を占め、次回はぜひ新歓合宿を体験してみたいという声も多数あり、自由記述欄からも好感触を得ました。現在、来年度の新歓イベント開催に向け、２年生有志らによって情報新歓委員会（代表：情報科学科２年榎本優香さん）が編成され新歓イベントの検討が始まっております。コロナ禍に負けずに主体性を持って大学生活を実りあるものにしていこうとする活動へ学生委員会も引き続きバックアップしていきたいと思います。

2021 年度夏季オンラインオープンキャンパス

情報学部広報委員会　荒木 由布子

コロナ禍のため、昨年度に引き続き今年度も、夏季オープンキャンパスはオンライン開催となりました。高校生の皆さんとキャンパスで対面できなかったことは残念でしたが、今後の学部広報の新たな形を考えるための機会と捉え、オンラインで情報学部を体験していただければと、様々な工夫を凝らした特設サイトを新設しました。サイトには、学部長挨拶、学部・学科紹介動画、学生生活指導・キャリア支援等の説明動画を掲載しました。入試相談は、８月６日にオンライン（同時双方向）で実施し、受験希望者が入試について気軽に学部教員に相談できる機会を設けました。さらに、大学の講義や教員の研究を紹介するミニ講義動画も各学科の教員（大木哲史先生、大本義正先生、スーター・レイ先生）が担当し、大学の授業を受けた体験ができるように工夫しました。他にも新歓スポーツデイの様子をまとめた動画や、学生団体「静大 ×R 同好会はまりあ」が作成した浜松キャンパス VR コンテンツ「バーチャル情報学部」など、オンライン開催を活かしたコンテンツも多く掲載いたしました。Web フォームを用いた何でも質問にも多数の質問が投稿され、関係委員会から適宜ご回答させていただきました。このオープンキャンパス特設サイトや本学情報学部のウェブサイトには全国から多くのアクセスがあり、８月は約 7,800 件ものアクセスがあり盛況のうちに幕を閉じることができました。

オンライン入試個別相談の様子
情報学部入試委員 狩野 芳伸 先生

情報科学実験Ⅰ

情報科学科　大木 哲史、野口 靖浩、峰野 博史、技術部：水野 匠、柴田 頼紀
TA　成田 淳（大木研）、竹内 廉（大木研）、柳瀬 翔（野口研）、杉田 幸司（小暮研）

「情報科学実験Ⅰ」は、情報科学科を代表する専門科目の一つで３年生前期に開講されます（https://exp1.inf.shizuoka.ac.jp/）。ごく当たり前に使用しているWebシステムを実際に構築するだけでなく、性能を測定・評価することで、システム開発の側面からの各種ボトルネック要因等を理解し、対応できる能力の養成を目標としています。３年生までに学んできた「コンピュータネットワーク」、「ネットワークプログラミング」、「オペレーティングシステム」、「データベースシステム論」、「アルゴリズムとデータ構造」等の科目群で習得したはずの知識や技術の定着を意図した実践的実験科目で、チームで実験計画を立て、測定したデータを基に議論し、ボトルネック要因を分析し資料にまとめ成果発表会を実施します。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教室の許容量50%を満たすよう対面組とオンライン組を組み合わせて交互に入れ替わる形で実施しました。また、演習用機材を１人１セットずつ配布し、MS Teamsを用いたチャットやオンラインミーティング環境の構築（全体＆チーム毎）、在宅でも対面と同様な実験を進められるよう工夫しました。以前のように全員が対面で顔をあわせることは少なくなりましたが、オンデマンド型･オンライン型･対面型を組み合わせたハイフレックスな実験実施環境によって、コロナ禍でも効果的かつ充実した実験科目の履修ができたと履修学生らの反応も上々でした。

祝！コミュニケーションスキルズⅠの対面再開

情報社会学科　M.G. シェフタル

今年の４月から、情報学部で（一部のZOOM式開講を除いて）全１年生が必修として通年で受講する英語４技能（話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと）を「特訓」で養う「コミュニケーションスキルズⅠ」の対面授業が開催されました。昨年の2020年度でコミュニケーションスキリズⅠをコロナの懸念からZOOMで行い、それでも受講生の間に大好評な授業でありましたが、やはり、「相手に自分のメッセージを口頭でどう伝えたらいい」という能力を養うために、「対面授業」がベストです。

教室では、教員も受講生もこの１年間以上に身につけた「３密を避ける」などのコロナ対策の知識とコツを活かせながら、週１回９０分間の「キャンパス内の海外留学」気分で安全で、充実的、真剣でやりながら楽しい授業が行われています。

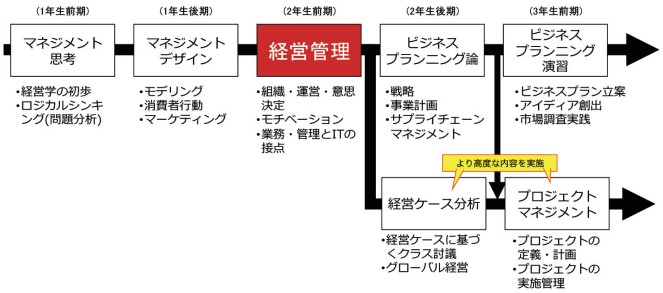
「経営管理」行動情報学科２年生前期必修科目

行動情報学科　梶原 千里、永吉 実武

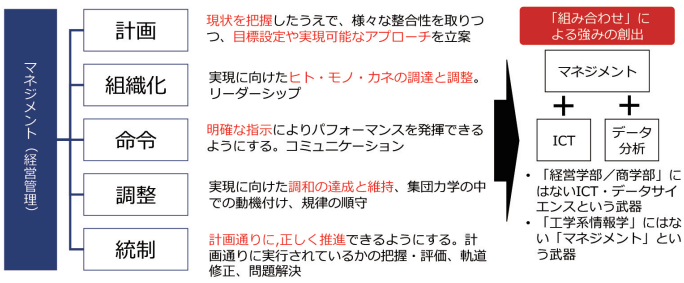
経営管理は、2020年度から開始された新カリキュラムで、新たに設置された科目です。行動情報学科２年生の必修科目のため、2021年度前期が初めての開講となりました。

本科目では、学生たちが社会に出たときに組織内で活躍したり、少し先の将来に部下を持った際に組織のパフォーマンスを高めたりするために、知っておいてほしいビジネスマネジメントの初歩的な内容を取り上げています。前半（担当：永吉）は、モチベーション、リーダーシップ、組織形態などのマネジメントの基本的な考え方を提供し、それに基づいて組織で現実に直面しそうなテーマを与え、学生自身に考えてもらっています。後半（担当：梶原）は、生産管理、品質管理、そしてそれらを支える情報システムといった業務管理とITの接点を、実社会の事例を交えながら説明しています。学生にとってビジネスの考え方は身近なことではないため、興味を持ってもらえるように、最近起こったニュースを取り上げたり、アルバイト業務でも実感できるような事例で説明したりしています。

「情報学部なのに、経営管理の授業があるのか？」と不思議に思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、本学科では、ICTやデータサイエンスに加えて、マネジメントを学ぶことで、どの業種・業界に就職しても、幅広い応用ができる人材の育成を目指しています。これからも、その目的に寄与できるような授業を展開していきます。



行動情報学科　ビジネスマネジメント系コア科目体系と「経営管理」の位置づけ



経営管理の概要と「組み合わせ」による強みの創出

新任教員紹介

アートの想像力と地域社会

情報社会学科　狩野 愛

今年４月に着任しました狩野愛です。皆さんは、アートが社会を変えていくメディアになると聞いたら、どう思われますか。私は、アーティストや社会活動家が、アートの手法を用いて文化、政治、経済的要因が絡んだ社会的課題に取り組む芸術的実践について研究しています。このような取り組みは「社会に関わる芸術」（Socially Engaged Art）と呼ばれています。そこでは、インターネットやラジオ、木版画からバイオテクノロジーまでさまざまなメディアを使い、表現、対話、協働、リサーチ、市民参加を通じて社会にある多様な問題や視点を浮き彫りにします。芸術や文化的な表現がもたらす社会的な想像力が、地域再生、ジェンダー、格差、環境問題など日常生活の課題に対する新しい対話の糸口となるのです。

情報学部のある浜松には、地域のハブになるような文化施設が多くあり、社会に関わる芸術実践の場になる可能性を秘めています。情報学部の「文工融合」の理念の下で、学際的な知識を身につけた学生の皆さんの力が役に立つ場面もたくさんあるでしょう。静岡大学情報学部の学生の皆さんとともに地域や社会と結びついた芸術実践について考え、研究を発展させていきたいと考えています。

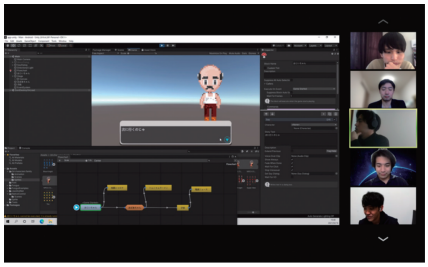
受賞学生の紹介

初ハッカソンでの入賞経験

総合科学技術研究科情報学専攻　松村 圭貴

朝日新聞社のハッカソンに参加した経緯は就職活動の一環です。以前会社説明会に参加したこともあり、ご縁あって人事の方からハッカソン参加のお声がかかりました。最初はハッカソン経験がなかったため参加に後ろ向きでしたが、このチャンスを無駄にしたくないという思いから参加しました。

ハッカソンはオンライン開催で 14 名の学生が参加しました。２日間で製作し、最後発表するという流れでした。私は共に参加していた学生１名とチームを組み２人で開発しました。「時事に興味ない若い世代でも時事を知る機会を作るアプリ」を目指しゲーム開発しました。開発中はチームのメンバーと遊んでいるような感覚で開発できました。メンバーとサポートしてくださった社員の方のスキルを目の当たりにしながら作業したことは大変刺激になりました。結果、私のチームはベスト企画賞に輝きました。アイデアが斬新だったことと遊びながら作業できたことによる集中力の継続が入賞した要因だと思います。



この経験で、学んできた情報学のスキルが社会で貢献できるという自信を持つことができました。これからも多くのことに挑戦していきたいです。

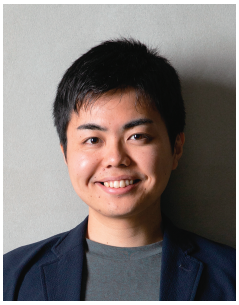
情報危機管理コンテストへの挑戦

情報科学科４年　井田 天星

一昨年、昨年に静岡大学情報学部の学生チームが情報危機管理コンテストにて優勝を果たしました。情報危機管理コンテストは、全国の学生が集い、インシデント解決能力を競うコンテストです。運営は、競技者が管理するネットワーク・サーバ等のシステムにトラブルを発生させたり、システムの顧客になりきって競技者と連絡を取ったりします。競技者は、システムの管理者となってインシデントにリアルタイムで適切に対応・解決する能力が問われます。情報学部がこのコンテストに出場するようになったのは、2018 年 (第 13 回) からであり、2019 年、2020 年の２年連続で経済産業大臣賞を受賞することができました。本コンテストにおいて２連覇を果たした大学は、本学が２校目であり、快挙となりました。参加するにあたって、できるだけ異なる学年を混ぜたようなチーム構成にすることで知識を下の代に継承し、経験を積ませられるようにしていました。これにより、今年度も情報学部からコンテスト経験者を含むチームが出場しました。情報危機管理コンテストという学外の活動を通して一つのコミュニティが形成され、成長を得られた素晴らしい経験でした。来年度も情報学部のチームを応援します。

第13回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム 学生プレゼンテーション賞受賞報告

総合科学技術研究科情報学専攻　若月 祐樹



情報技術の発達により、様々な情報処理が効率化され、技術や製品がすぐにコモディティ化するようになったため、イノベーションを起こすアイデアの重要性が増しています。これまで、ブレインストーミングなどのアイデア発想を支援する手法が盛んに研究されてきました。しかし、その多くはアイデアの質よりも量を重視したものでした。また、実際は長期的にアイデアを考えることが多いのに従来手法は短期的なアイデア発想にしか対応していません。そこで、場所や時間に制限されずに質の高いアイデア発想を再開する支援が必要だと考えました。

今回は、第 13 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムで学生プレゼンテーション賞を受賞しました。発表内容は、自らの出したアイデアと同じ意外な観点を持つ実世界情報を、アイデア発想再開のトリガとしてユーザに提示するシステムを提案し、その要素技術となる、アイデアを意外な観点で分類する手法の効果を検証しました。今後の研究で、この手法をもちいて実際にユーザのアイデア発想の再開を支援するシステムの開発と効果の検証を行いたいと思います。

キャリア&学生生活の紹介

令和3年度 キャリア支援室の取組み

情報学部キャリア支援室　椿 志保里

キャリア支援室は、学生の就職活動を支援する組織ですが、1-2年生の段階から学生が自分の将来像を描きそれに向かって学業や課外活動を選択的に実施することや、就職の対象となる職種や企業・組織を調査することを含めて、入学から進路決定までの過程を総合的に支援しています。教員のほかキャリア支援の専門事務職員を含めた8名で、年2回の進路ガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、合同企業説明会の開催、OB・OG会組織との連携による情報交換などを実施しています。

令和3年度は、コロナ禍で全般には厳しい状況でしたが、情報技術やデジタルトランスフォーメーション（DX）の担い手となる人材として評価を受け、夏休み前の時点（7月末）で、学部生68%、大学院生80%が内々定を得ており、例年と遜色のない状況です。引き続き未内定学生のための支援に尽力しているところです。

情報学部の卒業生は、情報技術の提供側の企業（IT企業）だけでなく、利用側である製造業、金融業、官公庁、あるいはネットサービスの企業などにも進路を広げています。企業は、情報技術を用いた事業改革を進めるなかで、見通しのきかない中に針路を指し示すことのできる人材を求めています。そのような企業の求めに応えるには「自分で考え行動する力」が必要です。

キャリア支援室では、このような力を育成する機会として、インターンシップへの参加を推奨しています。また、採用関連の企業情報や、卒業生の就職活動体験情報を、就職資料室（i-job）で提供しています。

就職資料室（i-job）の様子

卒業するにあたって

情報科学科４年　上山 彩夏

４年前の春、私は静岡大学情報学部に入学しました。これから始まる大学生活に期待を寄せていたものの、後期日程での合格であったため、釈然としない思いが少なからずありました。しかし、「後ろ向きに考えていても仕方が無い。後悔のない大学生活にしたい。」と考え、大学での講義や研究活動に全力で取り組んだところ、この４年間で一生ものの学びと出会いが得られました。入学当初は高校までと全く異なる講義に苦戦していましたが、互いに刺激しあえる学部同期に恵まれ、日々頑張ることが出来ました。その結果、４年間首席を維持し、学長表彰をいただけました。研究活動では、先が見えない状態に不安を感じることもありましたが、実験と調査を繰り返した結果、国際学会で成果を発表出来ました。そして、継続的な努力で何かを達成できたという経験は私に自信を与えてくれました。

振り返ると、私の成長は支え導いて下さった多くの方があってこそでした。ご指導くださった先生方、共に励まし合った友人たち、支え続けてくれた家族には心から感謝しています。最後に、今は静岡大学に入学を決めて、本当に良かったと感じています。

共同研究と就職活動

総合科学技術研究科情報学専攻　櫻田 京之介

私は、学部3年次から荒木研究室に所属し、統計学についての研究を行っています。学部生の卒業研究から修士1年の夏までは、手話学習の統計的解析について、機械学習や人工知能を用いた障害者コミュニケーションに取り組んでいる他研究室の先生と共同研究を行いました。この手話学習の共同研究では、手話の研究分野で取り組まれていなかった統計手法を適用することで、手話の性質を適切に捉えることが可能となり、手話学習者の特徴的な動きを人の身体部位ごとに明らかにしました。その結果が評価され、情報学分野のヒューマンインタフェース学会の学会誌に論文を投稿し、採択されました。また、現在は、その経験を活かしながら企業と共同研究を行っています。このように研究室を代表して共同研究に携わることは、とても責任やプレッシャーを感じます。しかし、その反面やりがいと成長を実感しています。また、コロナ禍で行った就職活動は、基本的にオンライン面接で、対面の面接が一度もない企業もありました。例年と違う形でしたが、私は、納得のいく形で就活を終えることができました。これは、共同研究や学会発表、学術論文誌掲載などの経験を積めた研究室での活動の成果だと思っています。残りの研究室の活動も成果が出せるよう取り組んでいきたいと思います。

学生生活

情報社会科学科３年　平田 夏凜

「もう大学2年生か。」昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で入学式ができず、オンライン授業が主でした。色々な行事が中止になり、人とあまり関わる機会が無く、友達もあまりできませんでした。しかし大学2年生になってから対面授業が増加し、同じ学科の子と関わる機会が増え、仲の良い友達ができました。私は情報学部のイベントでボランティアとして参加したことをきっかけに、2年生からアルティメットのサークルにも入りました。アルティメットはフリスビーを使った7人制のチームスポーツです。同期や先輩は2年生から入った私を温かく迎え入れてくれて、楽しく、時に厳しく練習に励んでいます。仲間と共に大会に出るとアルティメットの楽しさや魅力をより一層感じます。サークル以外では、浜松キャンパスで6月から国際交流ラウンジをオープンしたことを受け、国際交流ボランティアの一員になりました。毎週木曜日英語を使ってトークをしたり、ゲームをしたりして留学生など様々な学生と交流を深めています。学生の本業である勉学を頑張りつつ、その他の活動にも積極的に関わっていきたいです。

Joy風 vol.27 October2021

お問い合わせ
〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510・1511　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。
情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

https://www.inf.shizuoka.ac.jp/